

名前が発音しやすい人は、主張の尤もらしさを促進する

エリン・ニューマン、メヴァ・サンソン、エミリー・ミラー、アデル・クイグリー・マクブライド、ジェフリー・フォスター、ダニエル・バーンスタイン、マリアンヌ・ギャリー

概要

人がある主張の真実について判断を下すとき、関連性はあるが証拠にならない情報が、その主張を信じるように人を急速に導く——これは「尤もらしさ」と呼ばれる効果である。人の名前の発音のしやすさは、その人に帰属する主張の尤もらしさにも影響を与えるだろうか？私たちは、被験者に人の名前を肯定的な次元で評価するように依頼することで従来の研究を再現し、被験者に人の名前を否定的な次元で評価するように依頼することで、その研究を拡張した。次に、被験者に同じ名前のリストを読んでもらい、その名前に帰属する主張の尤もらしさを判断するよう依頼することで、新しい理論的問題に取り組んだ。すべての実験において、発音しやすい名前は、発音しにくい名前よりも優位だった。更に、発音のしやすさの影響は、それらの名前に帰属する主張の尤もらしさを生み出した。私たちの知見は、尤もらしさの新たな実証化であり、人が情報源に帰属する情報を評価する際に、処理の容易さといった主観的で付随的な特性が重要であり得ることを示すことにより、真実の効果と説得力に関する研究を拡張する。

導入

風刺新聞オニオン紙は、その古典的な記事「クリントン、ボスニアに母音を展開」の中で、Trszg Grzdnjkl(44 歳)の次の言葉を引用した。「私には 6 人の子供がいますが、どの子供も、私や他の人に理解できる名前ではありません。クリントンさん、私の哀れで惨めな家族に"E"を一つだけ送ってください。お願いします」発音しにくい名前を持つ人が苦しむ一方で、より発音しやすい相手が恩恵を受けることを示唆したオニオン紙は、いいところを突いていた。

人は、簡単な名前の付いている食品添加物の方が安全で、遊園地の乗り物の方が危険が少なく、株の方が儲かると思っていることを私たちは知っている——事実、発音のしやすい株は実のところ実際の経済的利益に変換される。発音のしやすさは、安全性、リスク、価値に関する意思決定とは無関係だが、それでも人は判断を下す際に付随的な手掛かりに目を向け得ることを私たちは知っている。

そのような手掛かりの 1 つは、相対的な情報の処理のしやすさ、つまり流暢性である。流暢な(または流暢でない)処理は、進行中の認知操作に関するメタ認知情報を提供でき、引き出せる知識やその他の診断情報が殆どない場合に、判断に最も影響を与える傾向がある。人は、流暢な処理を、目標刺激についての肯定的な手掛かりとして解釈する傾向があり、従って、肯定的な次元に沿って流暢な目標を評価する。同様に、否定的な次元に沿って流暢でない目標を評価する傾向がある。発音は、流暢性または非流暢性の経験を引き起こす可能性がある。

従って、人は、Hnegripitrom は Magnalroxate よりも危険な化学物質だし、Tsiischili は Ohanzee よりも危険な乗り物だし、RDO は KAR よりも悪い投資だ、と言う。

人の名前には、多くの情報 ― 民族性、性別、社会経済的地位 ― が込められているが、判断を下す際に、私たちは他人の名前の発音のしやすさにやはり敏感である。実際、最近の研究で、名前が発音しやすい人は、発音しにくい相手よりも肯定的に評価されるし、より好感が持たれるし、模擬選挙の候補者として好まれるし、法律事務所でより高い地位につくことが示された。しかし、名前の発音のしやすさは、名前そのものに留まらない効果を持っているかもしれない。つまり、私たちが分かっていることは、人の名前の発音のしやすさが、その人に関する評価だけでなく、その人に帰属する情報や主張にも影響を与えるのかどうか、ということである。もし、名前が発音しやすい人に帰属する情報の方が信憑性が高いと分かったとすると、発音のしやすさの基本的な操作でさえ、これまで考えられていた以上の影響を持ち得ることが示唆されるだろう。このような知見は、流暢性に関する文献に貢献するだけでなく、主張が様々な発音のしやすさを持つ情報源に付与されている、という多くの生きた事例にも示唆を与えるだろう。

実際、流暢性は、流暢な目標を超えて影響を及ぼす可能性がある。つまり、流暢性は、目標そのものだけでなく、その目標と時間的に関連する情報の判断に影響を与える可能性がある。例えば、ある研究では、プライミングされたばかりの写真 ― カエルなど ― がラベルに貼られていると ― その写真がワインの品質や名前とは何の関係もないにも拘わらず ― 人はそのワインボトルを選ぶ傾向が高かった。別の研究では、ある議論が、被験者がその実験の早い段階で見ている顔に帰属していると、よく知っている人の顔には議論の質を判断するための診断的価値がないにも拘わらず、人はその議論に説得力を見出す傾向が高かった。まとめると、これらの研究は、流暢性は漏れる、ということを私たちに教えてくれる。しかし、私たちが知らないことは、名前の流暢性が、名前そのものを超えて、また ― 特に、一回さらされたときに ― 真実の判断にまで漏れて影響を持つかどうか、ということである。

主張そのものが、流暢に感じられるような方法で提示されると、人はその主張を、真実である可能性が高いと評価することを私たちは知っている。高コントラストの色合いで提示された主張は、低コントラストの色合いで提示された主張よりも真実であると評価されることが多いし、繰り返される主張は、繰り返されない主張よりも真実であると評価されることが多い。また、最近の研究から、ある主張と、関連性はあるが証拠にならない情報 ― 関連する主張の正確性に関する診断情報を提供しない情報 ― とを組み合わせると、それにも拘らず、人は急速に、その主張は真実であると言う ― 「尤もらしさ」として知られる効果 ― ようになることも知っている(コメディアンのスティーブン・コルベアは、尤もらしさを「本ではなく直感からくる真実」と定義した。tinyurl.com/truthiness2012 も参照)。例えば、「温度計の内部の液体金属はマグネシウムである」といった主張は、単独で提示される場合より、温度計の写真つきで提示される場合の方が、真実と判断されることが多い。同様

に、有名人に関する主張も、単独で提示される場合より、有名人の人種、性別、職業、髪の毛を説明するいくつかの単語つきで提示される場合の方が、真実であると人は言う。

これらの実験のデータは、証拠にならない情報が概念処理を促進し、人を支援して、その主張を裏づける疑似的証拠を生み出すため、尤もらしさが生じることを示唆している。しかし、名前は明らかに証拠にならないし、付随する主張の概念的な処理を後押しすることもないし、人を支援して、それらの主張が真実であるという疑似的証拠を生み出すこともないだろう。もし、発音しやすい名前によって、付随する主張は真実であると人が急速に主張するようになったとしたら、それは尤もらしさへの新たな道筋となるだろう。

実験 1a～c で、私たちは、ラハムと共同研究者らが示す流暢性の影響を私たちの材料で再現し、彼らの知見を否定的な評価へ拡張することを試みた。従って、実験 1a～c で、肯定的または否定的な次元で名前を評価するよう被験者に依頼した。民族性を制御するために、世界のような地域から名前を作成した。各地域内で、一方の名前は比較的発音しやすく、もう一方の名前は比較的発音しにくかった。私たちの結果は、人の名前が化学物質、ジェットコースター、株のようなものであることを示唆する。これらの実験を通じて、発音しやすい名前は、発音しにくい名前よりも優位だった。

実験 2 で、私たちは、重要で斬新な理論的問題に目を向け、名前の発音のしやすさが、関連する主張の尤もらしさをどの程度生み出すかを問うた。発音のしやすさは証拠にならないにも拘わらず、発音のしやすい名前を持つ人は一関連する写真や単語のように一主張に尤もらしさを与えることを見出した。

実験 1a～c

実験 1a～c で、私たちは、名前の発音のしやすさが、人が知らない他人を肯定的な特性、または否定的な特性だと評価する方法に影響を与えるかどうかを問うた。

方式

被験者

ビクトリア大学ウェリントン校の学生 30 名が実験 1a を行った。実験 b と c で、対応する N は 28 人と 61 人だった(これらは授業プロジェクトの便宜的サンプルである)。すべての被験者は、キャンパス内の様々な場所から募集した。

倫理声明

この研究は、ビクトリア大学ウェリントン倫理委員会の委任された権限の下で、心理学部人間倫理委員会によって承認された。すべての被験者から、参加の前に、書面によるインフォームド・コンセントを得た。

デザイン

私たちは、被験者内で発音のしやすさを操作した。

手順

世界 18 ケ国の、外国の新聞やウェブサイトを使用し、(各国内の)実在の名前を、他の実在の姓と組み替えて、218 の新しい外国名の組み合わせを作成した。

次に、これらの名前と、ベンチマークを提供する有名な名前を、ランダムに、かつ同じものがないように組み合わせた 10 のリストを作成し、学部心理学コースの学生に「これらの人名の発音のしやすさを評価してください」とお願いし、1=非常に難しい、7=非常に簡単というスケールで評価してもらった。「発音しやすい」という概念は、間違いなく幅広い言語的特徴を包含しているが、評価者に対してその概念は運用しなかった。

これらの評価データを使って、9 組の名前を選択した。各ペア内で、一方の名前は比較的発音しやすく(平均評価は 5~5.83 の範囲、例えば、Andrian Babeshko)、もう一方は発音しにくい(平均評価は 1.17~2.67 の範囲、例えば、Yevgeny Dherzhinsky)。以下、これら 2 つの名前のカテゴリーを簡単に「簡単な名前」と「難しい名前」と呼ぶ。次に、9 人の評価者(学部内の他の学生)に、各名前の人物が地理的にどこの出身かを特定するよう依頼し、各ペアの名前が同じ地域のものだと特定されることを確認した。同じ 9 人の評価者は、各名前の音節の数も報告した。簡単な名前と難しい名前には差がなかった($M_{\text{簡単}}=5.15$ 、標準偏差=1.39 vs $M_{\text{難しい}}=5.22$ 、標準偏差=1.40)、 $t(16)<1$ 、正書法規則(ここでは対数バイグラム頻度、 $M_{\text{簡単}}=2.91$ 、標準偏差=1.02 vs $M_{\text{難しい}}=2.77$ 、標準偏差=0.93)、 $t(16)<1$ (MCWord Orthographic Wordform database, www.neuro.mcw.edu/mcword/ による計算)。表 1 に 18 の名前 — 東アジア、南アジア、西ヨーロッパ、東ヨーロッパから 2 ペアずつ、中東から 1 ペア — の最終的なリストを示す。

実験 1a では、床効果を回避するために、被験者に序言を読んでもらい、各名前(18 の名前はランダムな順序で提示)の親しみやすさを 1=非常に親しみがない、5=非常に親しみがある、の 5 段階スケールで評価してもらった。「この人たちは皆、各国で有名なので、以前、名前を聞いたことがあるかもしれません。しかし、あなたは、この人たちの名前に対して暗黙の — 無意識の — 記憶を持っている可能性があります。だから、この人たちの名前を知っていることに、あなたは気づかないかもしれません」実験 b と c は、前述のように、僅かな変更を加えて同じ方法を踏襲した。

実験 1b では、被験者は「あなたは、ツアーガイドを探している観光客だと想像してください。ツアー当日は体調があまりよくなく、リスクが高く冒険的な添乗員は避けたいと思っています」という序言を読んだ。その後、被験者は名前を見て、「どのツアーガイドだと最もリスクがあるか(そして、あなたの気分をますます悪くさせるか)」を決定した。彼らは、1=非常に安全、5=非常に危険、という 5 段階スケールで回答した。

実験 1c では、被験者に「次の人たちについて、以前、名前を一度も聞いたことがないと思

ったとしても、どれほど危険な人物か判断してください」と依頼した。ここでは、1=非常に安全、5=非常に危険とした。

結果と考察

実験 1a

各被験者について、親しみやすさの評価平均を計算し、それらの平均を名前が簡単か難しいかで分類した(各実験の生データについては、サポート情報を参照)。被験者は、難しい名前($M_{\text{難しい}}=1.40$ 、標準偏差=0.54、95%信頼区間[1.19~1.60])よりも、簡単な名前($M_{\text{簡単}}=1.55$ 、標準偏差=0.69、95%信頼区間[1.30~1.81])を親しみがあると評価した、 $t(29)=2.63$ 、 $p=0.01$ 、コーエンの $d=0.53$ 。

実験 1b

ツアーガイドのリスク性の評価平均は、実験 1a と同様のパターンを示している。被験者は、難しい名前($M_{\text{難しい}}=2.86$ 、標準偏差=0.43、95%信頼区間[2.70~3.03])よりも、簡単な名前($M_{\text{簡単}}=2.62$ 、標準偏差=0.48、95%信頼区間[2.43~2.80])をリスクが低いと評価した、 $t(27)=2.90$ 、 $p=0.01$ 、コーエンの $d=0.55$ 。

実験 1c

アドベンチャー・ツーリズムの肯定的なコンテキストがなくても、被験者は、難しい名前($M_{\text{難しい}}=2.70$ 、標準偏差=0.67、95%信頼区間[2.53~2.87])よりも、簡単な名前($M_{\text{簡単}}=2.46$ 、標準偏差=0.60、95%信頼区間[2.31~2.62])を危険性が低いと評価した、 $t(60)=4.01$ 、 $p<0.01$ 、コーエンの $d=0.52$ 。

これらの知見は、ラハムらの基本的な知見を再現しているが、発音の効果が名前に限定されるのか、それとも名前に帰属する情報にまで及し得るのかはまだ分かっていない。別の言い方をすれば、Andrian Babeshko に帰属する主張は、Yevgeny Dherzhinsky に帰属する主張よりも正しいと思えるだろうか？

実験 2

方式

被験者

合計 105 人の心理学の学生が、コースの単位を取得するために研究を行った。

倫理声明

この研究は、ビクトリア大学ウェリントン倫理委員会の委任された権限の下で、心理学部人間倫理委員会によって承認された。すべての被験者から、参加の前に、書面によるインフォ

ームド・コンセントを得た。

デザイン

2(トリビア記述:真、偽)×2(名前:簡単、難しい)の被験者内デザインを使用した。

手順

私たちは被験者に、何人かの留学生がお気に入りのトリビアを報告しているが、そのうちのいくつかは間違っている、と伝えた。私たちは、各トリビアの主張を実験 1a～c の名前と組み合わせ、被験者に、各主張の真偽を判断してもらった。私たちはマッキントッシュ iBook G4 コンピュータと PsyScope ソフトウェアを使って、2 秒間名前を表示した(「Andrian Babeshko は次のように言った」)。その後、その名前の横に、ある主張(「カメは耳が聞こえない」)を表示し、被験者はその真偽を報告した。

被験者は 16 の難しい主張(ノルム化の平均精度=52.34%、標準偏差=6.27%)を評価し、その半分は正しかった。つり合いを簡素化するために、オリジナルの 18 の名前のうち 16 を使用した。主張の半分は簡単な名前と一緒に表示し、残りの半分は難しい名前と一緒に表示した。私たちは、真と偽のトリビアの主張がそれぞれ、簡単な名前と難しい名前と同じ頻度で現れるようにバランスをとった。

結果と考察

簡単な名前に帰属する主張は、難しい名前に帰属する主張よりも尤もらしさに繋がった。言い換えれば、2(トリビア記述:真、偽)×2(名前:簡単、難しい)の反復測定 ANOVA は、名前に対して主要効果を示した、 $F(1, 104)=7.98$ 、 $p=0.01$ 、 $M_{\text{簡単な名前}}=0.55$ 、標準偏差=0.16、95%信頼区間[0.52～0.59]、 $M_{\text{難しい名前}}=0.50$ 、標準偏差=0.18、95%信頼区間[0.46～0.53]。また、人は偽の記述よりも真の記述を正しいと判断することが多く、真の記述は偶然を上まわり、偽の記述は偶然と同程度だった、 $F(1, 104)=19.82$ 、 $p<0.01$ 、 $M_{\text{真の記述}}=0.58$ 、標準偏差=0.19、95%信頼区間[0.55～0.62]、 $M_{\text{偽の記述}}=0.47$ 、標準偏差=0.19、95%信頼区間[0.43～0.50]。相互作用はなかった、 $F<1$ 、 $M_{\text{簡単な名前で真}}=0.62$ 、標準偏差=0.24、 $M_{\text{難しい名前で真}}=0.54$ 、標準偏差=0.24、 $M_{\text{簡単な名前で偽}}=0.49$ 、標準偏差=0.27、 $M_{\text{難しい名前で偽}}=0.45$ 、標準偏差=0.23。

簡単な名前を追加することで、実際に主張がより信頼できるように思えたのか?それとも、難しい名前は人を、その主張を信じさせない方向に押しやったのか?信頼区間の分布がキャッツアイ分布であり、母平均が信頼区間の中心で捉えられやすく、両端でますます捉えられにくくなることを考慮すると、私たちのデータは、ベースライン(52.34%)と比較して、簡単な名前は、その主張は正しいと言うように人を押しやったことを示唆する、 $M_{\text{簡単な名前}}=0.55$ 、標準偏差=0.16、95%信頼区間[0.52～0.59]。これらの知見は、名前の発音のしやすさが、単に名前に帰属する情報の遠位評価を形成する可能性があることを示唆する。

総合考察

4つの実験を通じて、私たちの知見は明確な物語を述べている。簡単な名前を持つ人とその主張は、肯定的な評価と否定的な評価の両方で、難しい名前の相手と比較すると、より好意的に評価される。簡単な名前は、より親しみやすく、リスクが低く、危険性が低いと評価された(各実験 1a～1c)。この発音のしやすさの効果は、名前を発音しやすい物や人が、いずれもより肯定的に評価されるという以前の実証結果を補強する。まとめると、私たちの知見は、簡単な名前は、それを背負う人に多くの利益をもたらす可能性があることを示す。

更に、実験 2 はラハムらの結果と一致するが、単なる概念的な再現ではない。私たちは、尤もらしさへの新しくて興味深い経路を発見した。その結果、簡単な名前を持つ人は、難しい名前を持つ人と比較して、主張に尤もらしさを与えることが分かった。このデータ・パターンは、名前の発音のしやすさが、名前そのものに付帯した判断を超えて広がり、時間的に関連する情報の判断に影響を与える可能性があることを示す。

私たちの知見は、人が情報源からの情報を評価する際に、処理の容易さといった主観的な一および付随的な一特性が重要になる可能性があることを示すことにより、真実の効果だけでなく、説得力に関する研究を拡張する。私たちの研究は、認知的な流暢性と知能の評価に関連する研究にも適合する。ある研究では、被験者は単純なエッセイを、複雑なエッセイよりも理解しやすい(そして、その著者がより知的である)と評価し、より簡単な言語がより流暢な処理を可能にすることを示唆する。人の知性を、その人の文章の特徴に基づいて評価することは理に叶っている。しかし、私たちの被験者が、他人の一般的な知識や結晶化した知能の正確さを一その人の名前の音声的特徴に基づいて一評価したことは驚くべきことである。

もちろん、発音のしやすさは、処理のしやすさ、しにくさという感覚への 1 つの経路にすぎない。例えば、単に眉を顰めるだけで、何かを不自由だと思わせたり、処理しにくいと思わせる可能性がある。今後の研究にとって興味深い問題は、簡単な名前や典型的な名前が、ある条件下で難しい名前に変わったり、難しい名前のように振る舞ったりする可能性があるかどうか一ひょっとすると、眉を顰めることが、「Andrian Babeshko」を「Yevgeny Dherzhinsky」のように感じさせるかもしれない一である。

今後の研究に向けたもう一つの重要な方向性は、人が他人について、流暢性に頼って判断を下さぬ前に、どれだけの情報を一どのような状況で一必要としているのかを考えることである。例えば、見知らぬ人ではなく、ブラッド・ピットのような親しみのある名前に帰属する主張を評価するのであれば、おそらく人は、発音のしやすさに敏感になりにくいだろう。実際、人が判断を下すにあたって、拠り所になる他の診断情報一過去の経験や一般的な知識一が多ければ多いほど、流暢性の経験に頼ろうとしなくなる。

私たちの結果は実際的な意味を持っている。それらは、診断情報が利用できなければ、様々な側面に沿って、また様々なコンテキストの中で他人を評価する一危険の評価から真実の評価まで一にあたって、人は発音に目を向けることを示唆する。このような効果は、現

実世界に大きな影響を与えるかもしれない。例えば、目撃者の名前の発音のしやすさは、陪審員の評決を左右するだろうか?この問いもまた、今後の研究にとって興味深い。一方、Sjlbvdnzv に住む Grg Hmphrs がユニオン紙に述べた言葉、「ほんの数文字で、私はジョージ・ハンフリーズになれるでしょう。これが私の夢なのです」についても、考えてみるとよい。

表 1. 発音のしやすさと出身地によって分類された名前

発音のしやすさ	世界の地域				
	東アジア	西ヨーロッパ	中東	南アジア	東ヨーロッパ
簡単	Chen Meina	Bodo Wallmeyer	Amira El-Naggar	Bandula Premachandra	Andrian Babeshko
	Chung Jung-hee	Marciano Larrosa	—	Putali Angami	Lubov Ershova
難しい	Hur Hye-seong	Maribel Alconero	Mahbobeh Mir-Ma’soum	Shagnik Ravunniarath	Czeslaw Ratynska
	Yu Zhenglong	Svea Gelowicz	—	Shobha Bhattacharya	Yevgeny Dherzhinsky

(注)中東の場合、被験者に示されたの名前は 2 つのみ。

サポート情報

親しみやすさ評価のデータ。実験 1a の[生データ](#)。

リスク評価のデータ。実験 1b の[生データ](#)。

危険性評価のデータ。実験 1c の[生データ](#)。

トリビア判断のデータ。実験 2 の[生データ](#)。